

〈名詞+数量詞+助詞〉型の数量詞

安部朋世

キーワード：NQC型の数量詞、「ある／いる」述語文、定／不定、
主名詞Q、非制限的連体修飾用法のNと代行指示のN

要 旨

本稿は数量詞が〈名詞+数量詞+助詞〉の順に現れるタイプ(以下NQC型と呼ぶ)について考察することを目的とする。NQC型の特徴として次の点が挙げられる。まず、NQC型は、「ある／いる」述語文で、かつNで示される対象の存在を初めて表明する——つまり不定解釈の場合に許容度が下がることが挙げられる。また、NQC型においてN(またはNQ)に定解釈がなされる際、Qが主名詞的に働きNが非制限的な連体修飾節のように働く場合と、Nが代行指示的に働く場合の2種類が認められることも挙げられる。NQC型が現れる文の傾向としては、〈対象とその数量を明示的に示す必要がある〉場合に多くみられることが指摘できる。本稿ではさらに、N/QC型との違いについて、許容度の差が生ずる文を挙げてそれぞれの型の傾向を述べる。

1. はじめに

現代日本語の数量詞は、次のように様々な位置に現れ得る^{*1}。

- (1) a Q/NC型：彼は2人の友人を事故で失った。
 - b NQC型：彼は友人2人を事故で失った。
 - c N/QC型：彼は友人の2人を事故で失った。
 - d NCQ型：彼は友人を2人事故で失った。
- (N：名詞 C：助詞 Q：数量詞)

(1)では、数量詞「2人」が4つの型のうちどの型で現れても自然な文であり、4つの文に際立った意味の違いは感じられない。

しかし、数量詞はどのような文においても(1)のように様々な位置に現れることができるわけではない。例えば、次の(2)のように不自然になる型が現れる例や、(3)の「前を走っていた車の台数」の解釈が「3台」(=ab)と「3台以上」(=bcd)に分かれる^{*2}ように型によって意味が異なる例が存在する。

- (2) a 2000ccの車を買った。^{*3}
b *車2000ccを買った。
c *車の2000ccを買った。
d *車を2000cc買った。
- (3) a 前を走っていた3台の車がぶつかった。
b 前を走っていた車3台がぶつかった。
c 前を走っていた車の3台がぶつかった。
d 前を走っていた車が3台ぶつかった。

このような現象について、先行研究では型の違いに注目して考察されてきたが、その多くは、NCQ型の数量詞が連用修飾の位置に現れる型であることから、専らNCQ型について他の3つの型と区別して考察するものであり、他の3つの型についてみると、Q/NC型はNCQ型と対比されて考察されるものの、NQC型については管見の限りそれほど多く取り上げられていないようである。本稿では、NQC型に注目し、この型の特徴を記述することを目的とする。

2. 先行研究の検討

1. 節でも述べたように、数量詞に関する先行研究においてNQC型について考察したものはさほど多くない。もっとも多く取り上げられているものは、連用修飾成分の位置に現れる点で他の型とは大きく異なるNCQ型である^{*4}が、NCQ型を問題とするこれら一連の研究は、当然NCQ型を考察対象としているため、本稿が取り上げるNQC型について言及するものは非常に少ない。一方、数量詞全般について包括的に研究するものではNQC型についての記述もなされるが、その記述では不十分な点もみられる。以下、NQC型についての先行研究の言及を4つ取り上げ、それぞれ検討する。

まず、井島1990の研究からみることにする。井島1990では、Q/NC型・NQC型・NCQ型の3つの型の機能を、「大きな円を描いた／大きく円を描いた」のような状態副詞類との対照、情報の新旧といった面から次のようにまとめる。

(4)

構文型	様態	情報	
		名詞	数量詞
Q / NC	事前／属性	旧／新	旧／新
NQC	事前／属性	旧／新	新
NCQ	結果	旧／新	新

属性様態：動作を受ける対象の、その動作によっても変化しない様態

事前様態：動作を受ける対象の、その動作を受ける以前の様態

結果様態：動作を受ける対象の、その動作を受けた結果としての様態

動作様態：動作を受ける対象の、その動作を受けつつある時の様態、あるいは動作

そのものの様態(花子は美しい舞を舞った／花子は美しく舞を舞った)

※数量詞に動作様態の解釈は困難⁵

ここでは、情報による分類においてNQC型のQに旧情報の解釈がないのかという点が問題となる。(3)bの「前を走っていた車3台がぶつかった」に「前を走っていた車は3台」という解釈が許容されるか否かということである。本稿の筆者自身は旧情報の解釈も感じられる。また実際に次のような用例もみられる。

- (5) …私は、同じクラスの平松君という、絵に描いたようなオール5の美少年と一緒に…放課後その女の先生に連れられて「東販」などという、出版の取次会社の倉庫に行ったのだった。…ひょっとしたらあの先生は、ウチの学校の図書室の年間予算を全部、自分の好きな男の子2人にまかせてしまったのではないだろうか？多分そうであろう。昔はとんでもないことが平気で起こる。半ズボン穿いた男の子2人は、体育館よりも更に大きな本の塊りを見上げて、呆然としていたのだった。(ロバート・158)

(5)は「私」と「平松君」の2人が先生と一緒に出版取次会社の倉庫へ行ったことが先に述べられており、「自分の好きな男の子2人」「半ズボン穿いた男の子2人」は井島1990の「旧情報」だと考えられる。

次に、宇都宮1995abをみる。宇都宮1995abでは、NQC型の特徴を、数量詞の名詞に対する機能、数量詞の意味的素性といった面から次のように記述する。

まず、数量詞の名詞に対する機能については(6)のように5つに分類し、各型との関係を考察する。各型との関係を表にすると(7)のようにまとめられよう。

(6) 数量詞の名詞に対する機能

- a 量化：あるまとまりから数量詞の表す数量分を選び出してそれを新たなまとまり

として表現する機能 — 「ケーキ3つ」

- b 付加：名詞に同格的な意味を加える機能 — 「年齢15歳」
- c 限定：属性規定ともいえる機能 — 「2000ccの車」
- d 統合：数量詞が名詞でさしめられた内容をまとめあげてその総数量を提示する機能 — 「母子3人」「日、米、市の3者」
名詞で示される集合が数量詞で示される集合の(真)部分集合
- e 分析：数量詞で示される集合が名詞で示される集合の(真)部分集合となっている場合 — 「米国内の5カ所」「武装組織の52人」

(7)*6

	量化	限定	統合	分析	付加
Q / NC	○	◎	×	×	○
NQC	○	×	○	○	◎
N / QC		×	◎	◎	例外的
NCQ	◎	×	×	×	○(同格文の場合)

(◎：代表的な機能 ○：有する機能 ×：有さない機能)

(7)をみると、NQC型は「付加」機能が代表的な機能であり、「限定」機能以外はすべて認められることになるが、なぜNQC型はこのような多様な機能が認められるのかが問題となる。

また、数量詞の素性として「数量性：数量を確定的に切り取れるか否かに関する素性」と「定性：数量詞が文脈上特定された名詞の集合と結びつくか否かに関する素性」の2つを設定し、数量詞を次のように分類する。

(8)*7

定性\数量性	+	n(±)	-
+	全数(全部)	部分数(半分)	ア
n(±)	定数(3人)	個別数(一つ一つ)	概数(数人)
-	イ	疑問数(何人)	量数(たくさん)

そして、NQC型の数量詞の特徴として次の点を指摘する。

- (9) 数量性・定性どちらも+を取り得ない数量詞(量数)はNQC型の位置にくることができない。

この宇都宮1995bによる「定性」という概念は「定(definite)／不定(indefinite)」とは異なるものと考えられるが、「特定の集合と結びつくか否か」という規定と挙げられた用例

をみると次のような疑問が生ずる。まず、「たくさんのピカソの絵」の例から、「定性-」のものは「数量詞によって規定される名詞の集合が唯一のものとして確定的に指し示すことができない」という指摘を「たくさんのピカソの絵を飾りたい」という文にあてはめてみると、確かに「ピカソの絵なら何でもよいから量的に多くの絵を飾りたい」のように不特定多数のピカソの絵を指すと考えられる。しかし、「たくさんのピカソの絵が展示してあった」の場合、展示してあるピカソの絵は確定的なものとして存在し、この場合「ピカソの絵ならば何でもよい」というわけではない。「確定的」の意味をこのように解釈するのではなく、「たくさんのピカソの絵」という場合、量が多いことが問題とされているのであり、しかもその量は「多い」というだけで「確定的ではない」という意味だとするならば、今度は、「定性+」とされる部分量「一部」の例「ピカソの絵の一部が展示してあった」の解釈に困ることになる。つまり、宇都宮1995bによる素性の概念は曖昧な点を含むと考えられるのである。

また、(9)に対しても次のような反例がみられる。

- (10) 平和のための社会運動などによると、投票日の5日、アルジェリア東部の町でイスラム過激派によるとみられる虐殺事件が発生、住民多数が死亡。(毎日97.6.7)

宇都宮1995bの分類からすると「多数」は定性も数量性も-の「量数」に分類されると思われるが、(10)のようにNQ型型の例文が存在する。よって、宇都宮1995bによるNQ型型の記述は問題があると考えられるのである。

次に奥津1969・1983の研究におけるNQ型型に関する記述をみる。奥津1969・1983の主張は「NQ型型はNQ型型を基底構造とする数量詞移動である」という点にあり、本稿の関心であるNQ型型を直接考察対象とするものではないが、基底構造に設定しているため、NQ型型について次のような指摘がみられる。

- (11)a NQ型型における「NQ」は一種の同格名詞構造をもつと考えられ、Nが対象物の質的側面を、Qが対象物の数量的側面を表している。
- b NQ型型におけるNとQの関係は、Nが主名詞であり、QはNを説明する(Nを主とするとQは従である)関係にある。
- c 「2000ccの車」のような属性を表す数量詞はNQ型型にならない。
- d NQ型型は「(鉛筆がたくさんある)〈その鉛筆〉3本」のようにNのみが定の解釈になる場合と「(鉛筆が3本ある)〈その鉛筆3本〉」のようにNQ全体が定の解釈になる場合がある。

- (11)dは井島1990のNQ型型のQの情報の新旧の記述とは異なり、本稿で提示した(5)のよ

うな現象をも含むものである⁸⁸。しかし、NとQの関係がNが主でQが従という場合だけかについては次節以降で考察するように疑問がある。

最後に、矢澤1985の指摘に注目したい。この論文はNCQ型の数量詞について考察したものであり、本稿が問題とするNQC型に直接言及するものではないが、次の(12)のような興味深い用例を指摘している⁸⁹。

- (12) a あの人は5人の子供がある。
b ?あの人は子供5人がある。
c ??あの人は子供の5人がある。
d あの人は子供が5人ある。

(12)はa「5人の子供」が特に属性を表しているとは考えられない。NCQ型のdが自然な文であり、adに特に大きな意味の違いを感じられないことから、これを属性に分類することは困難であろう。よって、この例文は奥津1983((11))や宇都宮1995ab((7)(9))では説明できない例文だと考えられる。NQC型の許容度が下がる例文とはどのような文であろうか。

以上、先行研究を検討した結果、いずれも示唆的な指摘を含むが、(12)のような例文に関しては説明が不十分であると考えられる。よって本稿は、先行研究を踏まえ、(12)の例文に注目してNQC型の特徴について考察する。

3. NQC型の数量詞の範囲

これまで本稿で扱う数量詞の範囲については特に規定してこなかったが、考察に入る前に本稿で対象とする数量詞の範囲を設定しておく。

一般に数量詞として考えられるものには、a)数詞+単位系以外の助数詞：3人/5冊 b)数詞+単位系助数詞：2回/10秒/1番 c)助数詞を伴わず数量の多少・割合を表すもの：全部/半分/多数 などがある。また、この他広く数量的な表現としては、「ほんの/たった」などの連体詞や「かなり/ずいぶん」などの副詞もあり、これらの副詞類とc)の「多数」などを明確に二分することは困難な場合がでてくる。

数量詞を広く数量的な表現と規定すればこのような広範囲なものを対象とすることができ、本稿はNQC型の数量詞を考察することから、そもそもNQC型に位置することができないものは範囲外とする。よって、「かなり/ずいぶん」などは範囲外とする。連体詞についても同様である。

また、a)b)についても「本3回/車200cc」のように許容されない場合がある。これは、「本」を「1回、2回」、「車」を「100cc、200cc」のようには数えられないためであると考えられるが、これらも範囲外とする。

以上のことから、NQC型の数量詞について次のことが確認できる。

(13) NQC型に位置することができる数量詞：

- a 名詞的な性質を有するもの
- b Nを計量するもの^{*10}

4. NQC型の特徴

4.1. NQC型の現れる文

NQC型は様々な文に現れ得る。例えば、次の各aはいずれもNQC型以外の例であるが、bのようにNQC型にかえても許容される。

- (14) a 友人は色留のあとに、付け下げを2枚つくってくれたのであるが、どれも京都風のはんなりと上品なものばかりで、正直言っていまひとつ物足りない気持ちが残った。(着物・26)
- b 友人は色留のあとに、付け下げ2枚をつくってくれたのであるが、どれも京都風のはんなりと上品なものばかりで、正直言っていまひとつ物足りない気持ちが残った。
- (15) a オリンピックの取材のため旅したバルセロナに2枚の着物を持っていった。(着物・166)
- b オリンピックの取材のため旅したバルセロナに着物2枚を持っていった。
- (16) a (略)武装組織の52人と政府軍の4人が死亡した。^{*11}
- b (略)武装組織52人と政府軍4人が死亡した。

しかし、実際にNQC型が現れる文をみると、新聞の報道記事や科学系の内容の文章など、対象とその数量を「何をいくつ」というように明確に示す必要のある文に多く見受けられる傾向にある。次の例をみられたい。

- (17) 神戸市須磨区で起きた小学生5人に対する連続殺傷事件で、神戸家裁(井垣康弘裁判官)は4日午後、殺人などの容疑で送致された中学3年の少年(15)に対する第1回審判を開き、非行事実の認否などを行った。…審判は午後3時半から約20分間、非公開で開催。少年のほか、付添人の弁護士3人が出席した。(毎日97.8.5)
- (18) 第3管区海上保安本部(横浜)の巡視艇など12隻と米海軍の艦船7隻、海上自衛隊の艦船12隻がオイルフェンスの設置や放水・拡散作業などを行っている。(毎日(夕)97.8.2)

- (19) 朝5時、念には念を入れて、ウレタンや布、ビニールクッションで嚴重に梱包したマンモスの骨5本が、初めて故郷『マンモスサイト』を旅立った。(絶滅・119)
- (20) 17世紀の初めに始まり2世紀半も続いた白人とインディアンとの長い争いの歴史も、1890年2月、スー族のインディアン200人(説によると153人とも300人ともされる)が殺された「ウンデッド・ニーの大虐殺」で終止符を打つことになる。(絶滅・307)
- (21) 実際1988年6月、オス2頭、メス3頭、合計5頭の不妊手術を受けたテキサスピーューマが実験のためラジオテレメトリーを付けて北フロリダに放たれた。(絶滅・412)

例文をみると、(18)や(21)のように複数の対象とその数量を対比的に列挙する文も多くみられる。

また、品物を注文する場合は対象と数量を明確に伝える必要があるが、そのような場合にも(22)のようにNQC型が許容されることは、「対象とその数量を明確に示す必要のある文に多い」という傾向性を支持するものと思われる。

- (22)a 『枕草子』5冊を研究室に郵送して下さい。
b 抜き刷り3部をいただけませんか。

NQC型を許容する文には条件となるような明確な特徴は見出し難いが、実際にNQC型が現れる文には次のような傾向があるといえよう。

- (23) NQC型が現れる文の傾向：NQC型は新聞の報道記事や科学系の内容の文章・品物を注文する場合など、対象とその数量を明確に示す必要のある文に多く現れる傾向にある。また、複数の対象とその数量を対比的に列挙する場合にも多く見受けられる。

4.2. NQC型が不自然になる文

一方、NQC型が不自然になる文はある特徴がみられる。次の例文はいずれもNQC型にすると不自然に感じられる例文である。例文の各aが元の文であり、bがNQC型にかえた文である。

- (24)a 宣長には墓が2つあって、1つは医者としての墓であり、1つは学者としての墓である。勿論、歌人としての墓はない。(デビッド・214)
- b ?宣長には墓2つがあって、1つは医者としての墓であり、1つは学者としての墓である。勿論、歌人としての墓はない。

- (25) a ヘラチヨウザメにも4本のひげがあると述べたが、このひげはあまりにも短くて、触覚器官としては役にたたず、そのかわりにへらが感覚器の役目を果たしているが、見た目よりも意外にもろいらしい。(マグロ・168)
- b ?ヘラチヨウザメにもひげ4本があると述べたが、このひげはあまりにも短くて、触覚器官としては役にたたず、そのかわりにへらが感覚器の役目を果たしているが、見た目よりも意外にもろいらしい。

これらの例文をみると、いずれも「ある／いる」という述語であることに気付く。先の(12)も「ある」という述語である。次に再掲する。

- (26) a あの人には5人の子供がある。^{*12}
- b ?あの人には子供5人がある。
- c ??あの人には子供の5人がある。
- d あの人は子供が5人ある。

しかし、「ある／いる」述語文ならば必ずNQC型が不自然になるというわけではない。次の文では(26)に比べるとそれほど不自然さは感じられない。

- (27) 今日午前、覆面をした2人組の強盗が銀行に押し入り、行員と客を人質に立てこもりました。現在建物の中には人質5人がいる模様です。

(26)と(27)の違いは、前者が「あの人は子持ちである」こと、つまり「あの人の子供が存在する」ことを述べる文であるのに対し、後者は人質の存在が前提となり、その人質について「現在建物の中に5人いる」ということが述べられている点にある^{*13}。(27)と同様の解釈が現れる例として次の(28)が挙げられる。(28)では、元の文であるaは「於継役をやった女優がこの世に4人存在する」ことを述べる文であるのに対し、bのようにNQC型にかえるとそのような意味ではなく、於継役をやった女優の存在が前提となり、その女優4人が例えば「この場所に来ている」というような意味に感じられる。

- (28) a 有吉さんの『華岡青州の妻』で、姑の於継をやった女優が4人いる。高峰秀子と山田五十鈴と杉村春子と水谷八重子。(ロバート・9)
- b #有吉さんの『華岡青州の妻』で、姑の於継をやった女優4人がいる。

以上の観察から、NQC型の特徴として次のことが挙げられる。

- (29) NQC型の特徴：NQC型が「ある／いる」述語文に現れた場合、Nで示される対象が前提とされ、「その対象N数量Qがその時点でその場所にある」という解釈になる。「ある／いる」述語文がNで示される対象の存在を初めて表明する文である場合は、NQC型が不自然になる^{*14}。

4.3. 定の場合におけるNとQの関係

(29)の「存在することが初めて表明される」対象を「対象が〈不定〉^{*15}である場合」と考えると、NQC型は専ら定解釈を許容するという予想が可能である。しかし、すでに挙げてきた例文から明らかなように、対象の存在を新たに表明するという解釈が明確になされる「ある／いる」のような述語に限っては「NQC型は専ら定解釈を許容する」といえるが、それ以外の述語では定／不定の制限なく許容される文になる。

ただし、定の場合に注目すると、NとQの関係に少なくとも次の2種類が認められる。

まず一つは次の(30)である。(30)aは2.節で定解釈の例として挙げた(5)の再掲であるが、bのようにNの「自分の好きな男の子」「半ズボン穿いた男の子」を取り除いても文意はさほどかわらない。むしろ、Qを取り除いてNのみにしたcの方が指示対象が同一であることが不明確になる。この場合のQ「2人」は、数量を表すというよりも「私と平松君」の言い換えとして用いられていると考えられる。

- (30)a …私は、同じクラスの平松君という、絵に描いたようなオール5の美少年と一緒に…放課後その女の先生に連れられて“東販”などという、出版の取次会社の倉庫に行ったのだった。…ひょっとしたらあの先生は、ウチの学校の図書室の年間予算を全部、自分の好きな男の子2人にまかせてしまったのではないだろうか？多分そうであろう。昔はとんでもないことが平気で起こる。半ズボン穿いた男の子2人は、体育館よりも更に大きな本の塊りを見上げて、茫然としていたのだった。(ロバート・158)
- b …私は、同じクラスの平松君という、絵に描いたようなオール5の美少年と一緒に…放課後その女の先生に連れられて“東販”などという、出版の取次会社の倉庫に行ったのだった。…ひょっとしたらあの先生は、ウチの学校の図書室の年間予算を全部、2人にまかせてしまったのではないだろうか？多分そうであろう。昔はとんでもないことが平気で起こる。2人は、体育館よりも更に大きな本の塊りを見上げて、茫然としていたのだった。
- c …私は、同じクラスの平松君という、絵に描いたようなオール5の美少年と一緒に…放課後その女の先生に連れられて“東販”などという、出版の取次会社の倉庫に行ったのだった。…ひょっとしたらあの先生は、ウチの学校の図書室の年間予算を全部、自分の好きな男の子にまかせてしまったのではないだろうか？

多分そうであろう。昔はとんでもないことが平気で起こる。半ズボン穿いた男の子は、体育館よりも更に大きな本の塊りを見上げて、呆然としていたのだった。

この現象は連体修飾構造における〈制限的／非制限的〉の違いを想起させる。

連体修飾構造には、〈制限的(restrictive)／非制限的(non-restrictive)〉の違いが認められる。本稿の関心からいうと、金水1986b^{*16}などの定義を踏まえた三宅1995の大まかな定義がわかりやすい。三宅1995では、〈制限的〉な連体修飾を「主名詞に対して何らかの限定を加えるような修飾」、〈非限定的〉な連体修飾を「主名詞に対して限定は行わず、ただ特定の情報を付加するだけの修飾」と定義している。次の(31)abは三宅1995で挙げている制限的な連体修飾(a)と非制限的な連体修飾(b)の例である。

- (31) a 松本清張が書いた小説はとても面白い。
b 『点と線』という小説がある。松本清張が書いたこの小説はとても面白い。
c 『点と線』という小説がある。この小説はとても面白い。

非制限的な連体修飾は連体修飾節を取り除いても文意は大きくかわらないことが特徴的である^{*17}が、(30)abはNQC型に非制限的な連体修飾構造を有する(31)bcと同様の現象がみられることを示している。

NQC型のこのような例に関しては、Qが〈主名詞〉的でNが〈非制限的な連体修飾節〉的な働きを有すると考えられよう。

定の場合のもう一つは、Nが〈代行指示〉^{*18}的な働きをする場合である。

- (32) a ひとつの問題提起は、前の問題のひとつを忘れろということである。忘れるべきではないだろうが、前の問題全部を真剣に頭においておけば、狂ってしまう。
b ひとつの問題提起は、前の問題のひとつを忘れろということである。忘れるべきではないだろうが、全部を真剣に頭においておけば、狂ってしまう。^{*19}
c ひとつの問題提起は、前の問題のひとつを忘れろということである。忘れるべきではないだろうが、その全部を真剣に頭においておけば、狂ってしまう。

(32)はbのようにNを取り除いた文も許容されるが、(30)とは異なり、QはNで示される対象の数量を表している。よって、(30)のような場合のQよりも「数量を表す」という数量詞としての機能を残していると考えられる。

NQC型が不定の場合のNとQの関係はおおよそ「対象とその数量」であるとまとめられるが、定の場合は、(30)のようにQが対象の数量を表すというよりも対象を言い換えたものと考えられる場合が認められるのである^{*20}。

5. N/QC型との相違点

NQC型と他の型を比較すると、形の上ではN/QC型と近い形だといえる。Q/NC型やNCQ型は、Qが連体用法か連用用法かの違いはあるもののいずれもNを主名詞とする名詞句であるのに対し、NQC型とN/QC型はQがCの直前に位置している点が共通しているからである。

また、現象を観察しても、N/QC型はNQC型と平行する現象がみられる。(33)は(24)(25)(26)(28)の各例をN/QC型にかえた文である(cは(26)cの再掲)が、abcはいずれも許容度の落ちるNQC型よりもさらに許容度が落ちるように感じられ、また、Nで示される対象が前提とされる解釈を許容するNQC型の(28)をN/QC型にかえたdでも、同様にNを前提とした解釈が得られる。また、(34)(35)のようにNQC型とN/QC型とで解釈に大きな差が生じない例もある。

(33)a??宣長には墓の2つがあって、1つは医者としての墓であり、1つは学者としての墓である。勿論、歌人としての墓はない。

b??ヘラチョウザメにもひげの4本があると述べたが、このひげはあまりにも短くて、触覚器官としては役にたたず、そのかわりにへらが感覚器の役目を果たしているが、見た目よりも意外にもろいらしい。

c??あの人には子供の5人がある。

d 有吉さんの『華岡青州の妻』で、姑の於継をやった女優の4人がいる。

(34)a スタッフ3人の意見は、囃らずも一致した。(絶滅・37)

b スタッフの3人の意見は、囃らずも一致した。

(35)a (略)武装組織52人と政府軍4人が死亡した。 ((16)の再掲)

b (略)武装組織の52人と政府軍の4人が死亡した。

よって、NQC型とN/QC型の違いが問題となるが、本節ではNQC型とN/QC型で許容度に差が生ずる例を指摘し、2つの型の傾向を大まかに述べる。

NQC型とN/QC型とで許容度に差が生ずる例には次のようなものがある。

まず、NQC型が自然でN/QC型が不自然になる場合を挙げる。

(36)a 野茂がブレーブス打線をヒット3本に抑えた。

b ?野茂がブレーブス打線をヒットの3本に抑えた。

(37)a エレオノールは彼との間に男5人、女3人の子供を作った。(歴史・21)

b??エレオノールは彼との間に男の5人、女の3人の子供を作った。

(38)a 注射2本で痛みが治まった。

b ?注射の2本で痛みが治まった。

(39)a 毎週100名様に現金1万円をプレゼント!

b ?毎週100名様に現金の1万円をプレゼント！

NQC型は自然だがN/QC型では許容度が下がる例は、Nを他の対象にかえると許容度が上がる場合がある。(40)のab、(41)のabをそれぞれ比較されたい。

(40)a ?野茂がグレーブス打線をヒットの3本に抑えた。((36)bの再掲)

b 野茂がグレーブス打線を内野安打の3本に抑えた。

(41)a??エレオノールは彼との間に男の5人、女の3人の子供を作った。((37)bの再掲)

b エレオノールは自分の産んだ子5人、養子の3人の子供を育て上げた。

これは、NとQとが連体修飾であることを示す「ノ」を介しているか否かの違いだと考えられる。

数量詞は単独では不定解釈の主名詞として機能することができない。(42)のように単独で現れると「何の／何を？」という疑問を誘発する^{*21}。つまり、不定解釈の場合は必ず何の数量かわかるような形、例えば名詞と共に現れ名詞の数量を表すといった形で文中に現れる。

(42)A 昨日3個を食べたよ。

B 何の3個を食べたの？／何を？

一般に連体修飾節は名詞句が不定指示の場合制限的であるとされる^{*22}。数量詞がNQCあるいはN/QCの位置にあり不定解釈の場合、Nが対象でQがその数量として結びつきの強い関係にあると考えられるが、N/QC型はノを介していることにより連体修飾節と形の上では同じであり、NがQを連体修飾する連体修飾節であるという解釈も可能となる。よって、不定の場合、N/QC型はNがQに対して制限的な連体修飾を行っていると考えられるのではなかろうか。そのために、(40)aのような対比される対象を想定しにくいNの場合、許容度が下がるのだと考えられる。(40)bの許容度が上がるのは、「内野安打」に対して「2塁打／3塁打…」といった対比的な対象を想定しやすいNであるためだと思われる。(41)も同様に対比される対象の想定しやすさの違いで説明できよう^{*23}。

一方、N/QC型が自然でNQC型は不自然になる例には次のものが挙げられる。

(43)a??いま、この地球上にはアフリカに2種、アジアに3種と合計5種類のサイが生息している。アフリカ2種とは「シロサイ」と「クロサイ」で、…。アジア3種類は、インドとネパールの国境沿いに棲む「インドサイ」が約2000頭。…。このうちアフリカ2種とスマトラサイが2本角、アジアの他2種が1本角である。

b いま、この地球上にはアフリカに2種、アジアに3種と合計5種類のサイが生息し

ている。アフリカの2種とは「シロサイ」と「クロサイ」で、…。アジアの3種類は、インドとネパールの国境沿いに棲む「インドサイ」が約2000頭。…。このうちアフリカの2種とスマトラサイが2本角、アジアの他の2種が1本角である。(絶滅・330)

(43)でNQC型の許容度が下がることについては、「3種類/2種」が「アジア/アフリカ」をそれぞれ計量するという対応関係にはないので、(13)bで確認したNQC型の数量詞の範囲から外れることから問題がない。ここで注目されるのは、QがNを計量するという関係ではないにも関わらずN/QC型が許容される点である。この場合のNとQの関係は、「アジアにいる3種類」「アフリカにいる2種」のようにNがQを属性規定的に修飾している関係にあるといえる。N/QC型に「2000ccの車」などのQ/NC型と同様の属性規定的な関係が認められるのも、N/QとQ/の違いはあるにせよ、いずれもノを介していることに起因していると思われる²⁴。

6. 結論

本稿で指摘したNQC型の特徴は次のようにまとめられる。

(44) a NQC型が「ある/いる」述語文に現れた場合、次のような特徴がみられる。

NQC型が「ある/いる」述語文に現れた場合、Nで示される対象が前提となる定の解釈がなされ、「その対象N数量Qがその時点でその場所にある」という解釈になる。一方「ある/いる」述語文がNで示される対象の存在を初めて表明する文である場合—すなわちNQC型が不定解釈になる文の場合は、NQC型が不自然になる。

b NQC型に定解釈がなされる場合、NQ間に次の2つの関係が認められる。

1つはQが主名詞的でNが非制限的な連体修飾節的な働きを有する場合で、もう1つはNが代行指示的な働きを有しQがその数量を表す場合である。前者はQが数量を表すというより先行詞の言い換えとして働いている点で他と異なり特徴的である。

c NQC型が現れる文の傾向として次のことが挙げられる。

NQC型は新聞の報道記事や科学系の内容の文章・品物を注文する場合など、対象とその数量を明確に示す必要のある文に多く現れる傾向にある。また、複数の対象とその数量を対比的に列挙する場合にも多く見受けられる。

また、NQC型とN/QC型との違いについては、N/QC型はノを介している点でN/Qが

連体修飾しているという解釈がなされやすく、特に不定解釈のときにNQC型に比べて制限的な連体修飾関係にあると解釈されやすくなるという考えを提示した。

さらに、N/QC型に属性限定的な修飾関係がみられることも指摘した。

本稿で指摘した点と先行研究との関係について簡単に触れておく。

aは数量詞を定/不定という観点から考察するという先行研究の成果をふまえ、NQC型の許容度が下がる文について現象を新たに付け加え特徴を記述したものである。aからも特にNQC型の数量詞については定/不定という観点から考察する必要があることが示唆される。

また、bはNQC型の数量詞に数量を表すというよりも主名詞として働く場合があることを指摘したものである。先行研究でのNQC型の数量詞は基本的に数量を表すとされており、何の数量を表すのかという観点からの考察が主であったが、本稿はNQC型を広く名詞句という観点から主名詞として働く場合について考察し、NQC型の文中での働きについていくつかの点を指摘できたと考える。

しかし、問題として残ることはabの関係である。abや傾向として指摘したcがどのように関連しているのかについては、今後の課題である。

NQC型にQを主名詞とする非制限的な連体修飾構造やNが代行指示的に働く場合が認められることから、NQC型の少なくとも一部はQを主名詞とする名詞句として広く名詞句の中に位置づけられる可能性を有すると考えられる。よって、他の数量詞の型との関係だけでなく、同格名詞や不定語を伴う名詞句など様々な名詞句との関係をみる必要があると思われる。例えば、同格名詞として(45)が挙げられる。

(45) 課長島耕作／美少女戦士セーラームーン

これは、「漫画家の加藤さん」のようなN1/N2C型と同じように、N1が身分等を表しN2が固有名詞であることが多い^{*25}。これもN1がN2を修飾する関係にあると考えられ、NQC型の一部との類似点がみられる。これらについても今後の課題としたい。

注

- *1 他に、「太郎は3冊本を買った」のようなQNC型も存在するが、これはNQC型とほぼ平行して考えられるものとする。
- *2 (3)bは「前を走っていた車」が「3台/3台以上」の両方に解釈できるというよりも、どちらかに区別することができないように感じられる。
- *3 例文の*/n/?は許容度の程度を表し、#は比較する例文と意味が異なることを示す。
- *4 NCQ型を他の型からの移動・遊離と位置づけ、基底構造とその移動・遊離の条件について研究するものに奥津1969・1983、柴谷1978等、NCQ型を他の型とは切り離し「連用修飾成分」として研究するものに矢澤1985、北原1994等、NCQ型の談話機能についての研究に大木1987、NCQ型を「連用用法」として「連体用法」であるQ/NC型との比較をしたものに長谷川1994、と多くの研究がある。

- *5 様態による分類は矢澤1985で指摘された「同時量／達成量」の違いを様態副詞類との対照から捉え直し、それを支持するものと位置づけられ、同様の現象がみられる数量詞と様態副詞類を包括的に捉えたものとして興味深い。ただし、様態副詞類には次のような「動作様態」があるのに対し、数量詞には動作様態の解釈は困難であるとする点については検討の余地があると思われる。例えば、安部1996で次の文の各aに「NQ／N^gケ」という状況でその事態が生じたことがあるという解釈(「彼は有名な漫才師2人、例えば横山やすしと西川きよしと一緒にいるところに出会ったことがある」という解釈や「ダイアナ妃以外の人がいない状況で話したことがある(ダイアナ妃との単独インタビュー)」という解釈)が優先的になされることを指摘したが、この解釈は「様態限定」的だと思われる。
- (ア)a 彼は有名な漫才師2人に会ったことがある。
 b 彼は有名な漫才師に2人会ったことがある。
- (イ)a 彼はダイアナ妃^gケと話したことがある。
 b 彼はダイアナ妃と^gケ話したことがある。
- *6 N/QC型の量化機能は、言及がなくその機能を有するの否かが不明のため空欄にした。また、N/QC型の付加機能は例外的に観察されるのみだとしている。
- *7 表のAは部分数のうちの「半分」などあるいは概数で、Iは定数あるいは疑問数で補うことが可能だとする。
- *8 厳密には奥津1983の「定／不定」の定義と井島1990の「新情報／旧情報」の定義を比較する必要があるが、例文の解釈に関する限り、ここでいう「定／不定」と「新情報／旧情報」はほぼ同様のことを指していると考えられる。
- *9 矢澤1985ではN/QC型の例文はない。よって、(12)cの判定は筆者による。
- *10 この場合の「計量」とは北原1996の「個体数量詞」「内容数量詞」の両方を含む。個体数量詞は「本3冊」のようなタイプであり、内容数量詞とは「チョムスキーの本100ページを読んだ」のようなタイプである。
- *11 (16)aは宇都宮1995a(28)を引用したものである。
- *12 NQC型が不自然になる文は自然な文との許容度の差が小さく、(26)を「あの人には隠し子5人がある」にかえると許容度が上がると判断する話者もいる。この違いについて明確な説明はできないが、おそらく後に述べるような対比される対象の想定しやすさの度合いに関係するものと思われる。
- *13 本稿の「対象の存在が前提とされる場合」と「対象の存在が初めて表明される場合」は、金水1986bの「名詞句が存在化された場合」と「名詞句が存在化されていない場合」にそれぞれ対応する。
- *14 この記述は英語のThere構文におけるいわゆる定性条件を想起させるが、日本語は本稿で扱うNQC型についてののみ許容度の差が生ずる程度で、英語のようにはっきりとした現象として現れるわけではないようである。
- *15 本稿でいう〈定／不定〉は金水1986abの定義に従う。すなわち「聞き手がすでに知っている」対象を〈定〉、「聞き手が知らない」対象を〈不定〉であるとする。
- *16 金水1986bでは「限定／情報付加」という用語を用いるが、「限定(=制限的)：主名詞の表す集合を分割し、その真部分集合を作り出す」「情報付加(=非制限的)：背景・理由・詳細説明などの情報を主文に付加する」と定義しており、三宅1995でもこの概念とほぼ同じだと述べている。
- *17 金水1986bでは、非制限的な連体修飾節が情報付加の機能をもつことを連体修飾節を取り除いても文意がかわらないことで示している。また、三宅1995に、連体修飾節は名詞句が不定指示の場合は制限的であり、定指示の場合は非制限的であるという指摘がある。
- *18 林1983では指示詞「この／その」に「この／その／ ϕ ＋名詞」全体で先行詞と照応する〈指定指示〉と「この／その」の部分だけが先行詞と照応する〈代行指示〉の2つの用法があることを指摘している。
- *19 (32)bは宇都宮1995b(7a)を引用したものである。

- *20 宇都宮1995bでは本稿における定の場合の2種類の両方を合わせて「数量詞の代名詞化」と呼ぶが、Nが代行指示的な働きを有すると考えられる場合の数量詞Qはそれ自体が先行詞と照応しているわけではなく、数量詞的な要素を残すことから、厳密には「代名詞」とは言い難いと考える。また、本稿でいう代行指示的な場合は宇都宮1995aの分析・統合機能の定解釈の場合と用例は重なると思われるが、宇都宮1995aはQを数量詞として何の数量を表すかに注目して考察するのに対し、本稿はQが主名詞的に働く場合として位置づけている点が異なる。
- *21 庵1995では代行指示のソノ・コノの分布を考える上で、名詞を必須項をとらない0項名詞と必須項をとる1項名詞に分類する。この分類に基づく主名詞として働くQも1項名詞に分類されるように思われる。
- *22 三宅1995に「連体修飾節は、名詞句が不定指示の場合は制限的であり、定指示の場合は非制限的であると言える。」とある。
- *23 次の例は「何人働いているか」ということが問題とされ、Nを取り除いた「7人が」が許容される文であるが、この場合N/QC型だけでなくNQ型も許容度が下がる。
- a 南京落城飯店は年のいったオジサンとオバサンの2人でやっているが、同じ南口を右に行ったところのシマウマプラザの地下にある中華の“百十番”は、色んな人間でやっている。少なくとも、この店には7人の人間が働いている。(ロバート・204)
- b??…少なくとも、この店には人間7人が働いている。
- c??…少なくとも、この店には人間の7人が働いている。
- d ?…少なくとも、この店には人7人が働いている。
- e??…少なくとも、この店には人の7人が働いている。
- NQ型は「人7人が」にすると許容度が相対的に上がることから、名詞によって対比される対象の想定しやすさの度合いや想定される対象が異なることが予想される。
- *24 また、NQではなくQQという形ではあるが類似する現象として次の例が挙げられる。
- a *このとき人口はすでに6000倍に膨れ上がり、「前線」に半分30万人がいた。
- b このとき人口はすでに6000倍に膨れ上がり、「前線」に半分の30万人がいた。(絶滅・218)
- *25 寺村1991では「N1/N2」について「N1がN2の種類、身分、状態などを意味している“従→主”の関係」であるとする。

参考文献

- 安部朋世1996「ダケによる〈限定〉と数量詞による〈修飾〉」『筑波日本語研究』創刊号 筑波大学文芸・言語研究科日本語学研究室
- 庵功雄1994「定性に関する一考察——定情報という概念について——」『現代日本語研究』1 大阪大学現代日本語学講座
- 庵功雄1995「語彙的意味に基づく結束性について——名詞の項構造との関連から——」『現代日本語研究』2 大阪大学現代日本語学講座
- 井島正博1990「数量詞の多層的分析」『山梨大学教育学部研究報告』41
- 井上和子1978『日本語の文法規則』大修館書店
- 宇都宮裕章1995a「数量詞の機能と遊離条件」『共立国際文化』7
- 宇都宮裕章1995b「日本語数量詞体系の一考察」『日本語教育』87
- 大木充1987「日本語の遊離数量詞の談話機能について」『視聴覚外国語教育研究』10 大阪外国語大学

- 奥津敬一郎1969「数量的表現の文法」『日本語教育』14
- 奥津敬一郎1983「数量詞移動再論」『人文学報』160 東京都立大学人文学部
- 奥野忠徳1989『変形文法による英語の分析』開拓社
- 加賀信広1997「数量詞と部分否定」『日英語比較選書4 指示と照応と否定』研究社出版
- 影山太郎1993『文法と語形成』ひつじ書房
- 北原博雄1994「数量詞の連用修飾用法——数量詞と先行詞との関係——」『文芸研究』137 東北大学
- 北原博雄1996「連用用法における個体数量詞と内容数量詞」『国語学』186
- 金水敏1986a「名詞の指示について」『築島裕博士還暦記念国語学論集』明治書院
- 金水敏1986b「連体修飾成分の機能」『松村明教授古稀記念国語研究論集』明治書院
- 佐治圭三1969「時詞と数量詞——その副詞的用法を中心として——」『月刊文法』12月号 明治書院
- 柴谷方良1978『日本語の分析』大修館書店
- 寺村秀夫1991『日本語のシンタクスと意味』Ⅲ くろしお出版
- 長谷川重和1994「数量詞の修飾について」『日本語・日本文化』20 大阪外国語大学留学生日本語教育センター
- 林四郎1983「代名詞が指すもの、その指し方」『朝倉日本語講座五 運用I』朝倉書店
- 福沢清1983「指示と数量詞」『熊本大学教養部紀要 外国語・外国文学編』18
- 益岡隆志1981「文法関係と数量詞の遊離」『神戸外大論叢』32-5
- 三原健一1994『日本語の統語構造 生成文法理論とその応用』松柏社
- 三宅知宏1995「日本語の複合名詞句の構造——制限的／非制限的連体修飾節をめぐって——」『現代日本語研究』2 大阪大学現代日本語学講座
- 矢澤真人1985「連用修飾成分の位置に出現する数量詞について」『学習院女子短期大学紀要』XXIII
- 吉本啓1986「日本語の指示詞コソアの体系」(Yoshimoto1986 'On Demonstratives KO/SO/A in Japanese' 『言語研究』90 の日本語訳)『日本語研究資料集 指示詞』ひつじ書房所収

資料

- (着物) : 林真理子1996『着物の喜び』新潮文庫
- (絶滅) : 五十嵐享平・岡部聡・村田真一1992『絶滅動物の予言』情報センター出版局
- (デビッド) : 橋本治1991『デビッド100コラム』河出文庫
- (マグロ) : 中村幸昭1986『マグロは時速160キロで泳ぐ——ふしぎな海の博物誌』PHP研究所
- (歴史) : 永井路子1972『歴史をさわがせた女たち・外国篇』文藝春秋
- (ロバート) : 橋本治1991『ロバート本』河出文庫
- (毎日) : 毎日新聞・朝刊
- (毎日(夕)) : 毎日新聞・夕刊

(1997年8月31日 受理)